

ちょっとしたことがきっかけで、 「学校に行きたくないなあ。」 と思うことがあるかもしれません

子供たちが学校に行きたくないと思う理由は様々あります。大人にとっては「こんなことで？」と思うようなことでも、子供にとっては大きな悩みかも知れません。特に新学期を迎え、新しい環境での生活になじめず悩んでいる子供たちがいるかも知れません。支援の第一歩は、周囲の大人が気付いてあげることです。



1 「学校に行きたくないなあ。」のサインかもしれません。

御家庭で次のような様子が見られませんか。それはお子様からの SOS かもしれません。

- 朝食をとらなくなる
- イライラすることが多くなる
- 学習に集中できなくなる
- 学校や友達の話をしたがるなくなる
- 夜更かしが増え、朝起きられなくなる
- 朝又は日曜の夜になると頭痛、腹痛など体調不良を訴える
- 部活動や習い事を休みがちになる
- 先生や友達に対するネガティブな発言が増える
- スマートフォンやゲームを手放さなくなる など



2 まずは学校に相談してみてください。

学校には様々な専門性をもった職員がいます。お子様のことで心配なことがありましたら、まずは学校に御相談ください。

- 学年主任等
→連絡相談の窓口は主に学級担任が担いますが、状況に応じて学年主任や学年所属の教員、副校長等が対応します。
- 養護教諭
→子供たちの心や体の健康相談に乗ります。保健室は、学級に入りづらい子供たちの一時的な居場所にもなっています。
- 特別支援教育コーディネーター
→特別支援教育の推進役で、保護者からの相談窓口となり様々な会議や、関係機関との連絡・調整などを行います。
- スクールカウンセラー
→心理の専門家です。子供たちのカウンセリングや、保護者の方へのアドバイスを行います。



3 お子様の状況に応じた支援があります。

児童・生徒が円滑に登校できるよう、安全で魅力ある学校づくりを目指しながら、心配な様子が見られた児童・生徒について、一人一人の状況等に応じた対応を行います。

学校の支援

- 「サポートルーム」等を活用した校内での居場所づくり
→学校には行けるけど「教室に入りにくい・入れない」などと感じている児童・生徒に対して、「サポートルーム」を活用し、指導を受ける機会をつくります。
- タブレット端末を活用した学びの保障
→タブレット端末を活用して、面談や、授業の配信、家庭学習の支援などを行います。「サポートルーム」でも授業の配信を受けられます。
- 定期的な家庭訪問の実施
→家庭訪問を通じて、児童・生徒との関係をつくります。
- 支援員との関わり
→登校時の家庭訪問による児童・生徒の出迎え、保護者との対話、登校後の児童・生徒への個別指導、別室登校状態からの教室復帰への支援等を行います。



教育委員会の支援

- 教育相談
→児童・生徒及び保護者を対象として、心配事や悩みについての電話相談や心理士による面談を実施しています。
 - 適応指導教室「けやき教室」への通級
→小学生から中学生までの児童・生徒を対象とした、集団生活への適応、学習支援、学校生活への復帰に向けた支援等を行っています。学校とは違った環境の中での学習や小集団での活動を通じ、学校生活への復帰に向け取り組みます。
- ※ 1 府中市立教育センター リーフレット(教育相談・「けやき教室」概要)
〔https://www.city.fuchu.tokyo.jp/kyoiku/kyoiku_sodan/kyoikucenter.files/0401_kyouikuc.pdf〕
- ※ 2 不安や悩みがあるときは・・・一人で悩まず相談しよう(相談機関連絡先一覧)
〔<https://www.city.fuchu.tokyo.jp/kyoiku/gako/natuyasumi.files/01.pdf>〕



子育て全般の支援

- 子育て世代包括支援センター「みらい」
→育児の悩みごと、子育て家庭のあらゆる悩みごとについて話を聴き、関係機関から情報収集し、必要な支援の検討とサービスの紹介、関係機関へのつなぎ等コーディネートして問題解決を図ります。
- ※ 「みらい」の概要について(府中市 HP)
〔<https://www.city.fuchu.tokyo.jp/shisetu/kosodate/houkatsushien-mirai/mirai.html>〕

